

岡山県障害者（児）施設サービス自主評価結果（公表用）

施設名：デイセンターひるぜん

施設所在地：岡山県真庭市蒜山下福田1-126

施設種別：生活介護

運営主体：社会福祉法人 慶光会

施設長名：丸山 朝美

評価月日：令和3年3月20日

評価項目（中項目）	評価結果
I-1 理念・基本方針	評価：B 法人の事業指針は作成している。理念・基本方針は年度当初の職員会議等で確認し、職員へ周知できるようにしている。事業所内に事業指針を貼り出し、広報誌等にも記載しているが、職員が内容をきちんと理解して取り組みできているかという面は不十分になっている。
I-2 計画策定	評価：B 法人の理念・基本方針の実現に向けた目標は、年度当初の職員会議にて明確にされている。それに基づいて日々の支援に反映できるようにしているが、振り返りや見直しが出来ておらず、昨年度同様今後の課題になっている。
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	評価：B 管理者の役割・責任については年度当初の会議で管理者より伝えるようにしており、職務分掌について書類を渡し、いつでも確認できるようにしている。事業所会議等から支援の向上に向けて課題を把握し現場へ伝えているが、なかなか課題解決に至らないケースも多い。
II-1 経営状況の把握	評価：B 社会福祉事業全体の動向は、研修等に参加して把握するようにしているが、今年度は研修会への参加が少なかったため、法人本部からの情報を確認し把握できるようにした。事業所が位置する地域での特徴・変化等については把握しきれていない。経営状況は経営管理会議等で把握できるようにしているが、内容すべてを管理者が把握できてない項目もあり、現場職員に対して経営状況や改善すべき課題について伝えることはできていない。

評価項目（中項目）	評 価 結 果
II-2 人材の確保・養成	<p>評価：B 法人として人材確保のため、部会が計画を立てて様々な活動に取り組んでいる。人事考課については、昇級、正規職員登用について取り組み、客観的な基準に基づいて行われており、対象職員については結果を伝えられるようにした。また新任職員、中堅職員研修もプログラムを立てて取り組んでいる。</p>
II-3 地域との交流と連携	<p>評価：B 事業計画の中にも地域との交流について明示しているが、事業所として地域に向けて利用者理解につながる取り組みはできていない。また、今年度は新型コロナウイルス感染症のため、ボランティアの受け入れも出来なかった。</p>
III-1 利用者本位の福祉サービス	<p>評価：B 理念・具体的な考え方を現場での支援の実情に合わせて確認してきたが、人権について論議する場が以前より少なくなっており課題である。事業所内での人権委員会や事業所会議にて、支援面についての話し合いができるようにしているが、会議に参加されない方への引継ぎが上手くできていない。選挙権行使については、利用者の意思を尊重して参加できるように配慮している。また利用者が相談や意見が言える機会を朝会や休憩時間に作るようにし、声を聞いて支援に活かせるようにしている。</p>
III-2 サービスの質の確保	<p>評価：B 定められた評価基準に基づいて年1回自主評価を行っているが、課題の共有化が十分に図られているとは言えない。記録については、システムを活用し、毎日利用者の様子を記録に残し、生活事業所や保護者への引継ぎも行えるようにしている。ケースカンファレンスが実施できていない現状があり、事業所会議の中での検討のみにとどまることが多いため、今後は時間を取って検討できるようにしていくことが課題である。</p>
III-3 サービスの開始・継続	<p>評価：B 組織を紹介したホームページを適切に公開している。サービスの開始時の説明や重要事項説明書・契約書の取り交わしは行っているが、保護者は理解されていても利用者自身が理解しにくい面があるため、資料や工夫していくことが今後の課題である。他事業所との連携も必要になるため、スムーズな利用開始ができるようにしていくことが、今後も継続した課題として残っている。</p>
IV-1 利用者に応じた個別支援プログラム	<p>評価：B 利用者・家族の要望を確認したうえで、個別支援計画の策定、モニタリングにて振り返りや見直しを行うようにした。モニタリング後にはケア会議を持ち、利用者の目標を具体的にすることや、利用者の状況を細かく把握できるという点に力を入れて、支援を勧められるようにしている。利用者の自己決定や主体性を大切にして取り組めるようにしている。</p>

評価項目（中項目）	評 価 結 果
IV-2 日常生活支援サービス	<p>評価：A 日常的に健康管理を看護師と連携して適切に行っている。また、生活事業所とも連携し、必要な対応もできている。レクリエーションについては、利用者の希望を聞きながら開所日を活用して実施し、意見を取り入れた活動が行っていくことで活動の幅が広がった。</p>
V-1 生活環境の整備	<p>評価：B 精神的に不安定な時や一人になりたいときは、休憩室にて休んでもらえるようにしている。休憩できる部屋が2部屋あるため、複数の利用者が休みたい時でも対応できている。事業所を利用開始する際には家族としっかり話し合い、アセスメントを行った中で本人に合った環境を整備するようにしている。個別対応も行えるようにしている。</p>
VI-1 緊急時の対応	<p>評価：A 事故や急病への対応としては、様々な事態を予測した中で対応マニュアルが整備されている。事業所内での動きやフローチャートは理解できているが、外部の関係機関との連携は十分とは言えないため、避難訓練等を行いながら確認できるようにしていくことが課題。</p>
VII-1 就労意欲の醸成	非該当

* 着眼点の項目等を参考に、具体的な実施（達成）の状況や、未実施の場合はその理由など評価における根拠とともに、今後の改善計画（方針）なども記載してください。

* 「VII-1 就労意欲の醸成」欄は、授産施設のみが該当します。